

千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第13週 (3/25-3/31) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		13週	12週	11週	10週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	27	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	3/25-3/31	3/18-3/24	3/11-3/17	3/4-3/10	3/18-3/24
			13週	12週	11週	10週	12週
小児科	RSウイルス感染症		3 0.17	3 0.17	7 0.39	1 0.06	28 0.21
	咽頭結膜熱		1 0.06	3 0.17	7 0.39	1 0.06	22 0.17
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		42 2.33	57 3.17	63 3.50	34 1.89	435 3.27
	感染性胃腸炎		83 4.61	88 4.89	111 6.17	106 5.89	571 4.29
	水痘		12 0.67	19 1.06	12 0.67	9 0.50	80 0.60
	手足口病		0 0.00	0 0.00	1 0.06	1 0.06	4 0.03
	伝染性紅斑	↓	8 0.44	14 0.78	26 1.44	17 0.94	128 0.96
	突発性発しん		13 0.72	14 0.78	9 0.50	9 0.50	61 0.46
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	6 0.05
	流行性耳下腺炎		2 0.11	1 0.06	2 0.11	3 0.17	12 0.09
	インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)	24 0.86	29 1.04	37 1.37	83 2.96	286 1.35
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		2 0.40	2 0.40	0 0.00	1 0.20	21 0.60
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

2 全数報告対象疾患(8件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	60歳代	病原体遺伝子の検出等	風しん	男性	30歳代	血清IgM抗体の検出
結核	男性	60歳代	病原体の分離・同定等	風しん	男性	40歳代	血清IgM抗体の検出
腸管出血性 大腸菌感染症	男性	20歳代	病原体の分離・同定 及びベロ毒素の確認	風しん	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出
				風しん	女性	30歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳代	抗体の検出	-	-	-	-

* 第13週は、結核2件(33)、腸管出血性大腸菌感染症1件(2)、百日咳1件(28)、風しん4件(18)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

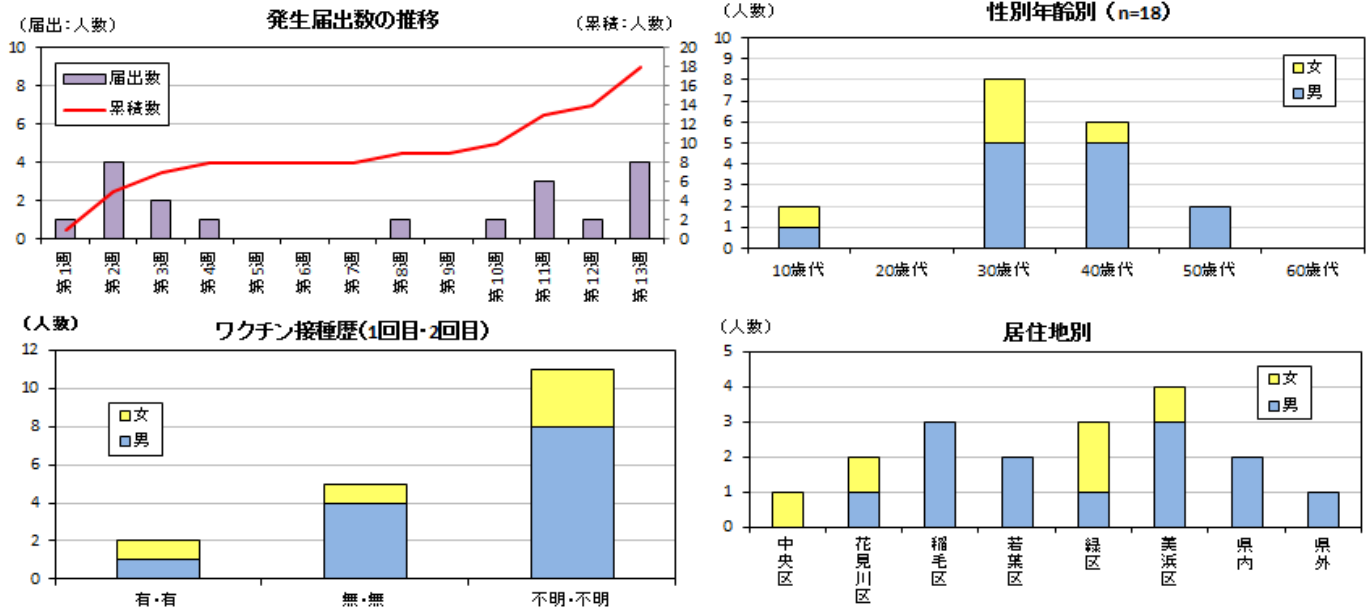
定点当たり報告数 第13週のコメント

<伝染性紅斑> 前週より減少し0.44となった。過去10年の同時期と比べると多め。

トピック

<風しん>

全国レベルの第12週の累積報告数は1000件を上回って1033件となり2013年に次ぐ多さとなっており、昨年の同時期と比べると200倍を上回っています。都道府県別では、東京都、神奈川県、千葉県順で多く、関東地方で多く報告されています。千葉市では第5週に一旦発生報告が途絶えたものの第8週から次第に増加し始め、第13週には4件に増加し、2019年の累積報告数は18件となりました。性別では男性が72.2%(13名)、女性が27.8%(5名)となっており、年齢階級別では30歳代(44.4%:8名)、40歳代(33.3%:6名)、50歳代及び10歳代(共に11.1%:2名)の順で多く、30歳代~40歳代の男性が中心となっています。ワクチン接種歴は、無し又は不明が全体の90%近くを占めています。



<伝染性紅斑>

全国レベルの第12週の定点当たりの報告数は0.56で、過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、石川県、山形県、沖縄県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.96で、全国レベルと比べるととても多くなっています。千葉市の第13週は前週より更に減少し0.44となりましたが、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、緑区(1.25/定点)で最多で、同区の6歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第13週までの累積報告数は233件で、性別では男性が54.9%(128名)、女性が45.1%(105名)となっており、年齢階級別では5歳(18.9%:44名)、4歳(17.2%:40名)、6歳(15.5%:36名)の順で多くなっています。

